

# 厚内でオジロワシ

山田 由紀江

厚内でオジロワシを見ようなどとは思いもよりませんでした。1983年1月18日のことです。厚内公民館の窓の向うに広がる大空に、カラスにまつわりつかれながら飛んでいる大きな鳥が現われたのです。「アッ。オジロワシの幼鳥！」と半信半疑ながらも、思わず興奮してしまいました。

それから機会をみては、その姿を探していたのですが、自分の怠慢のためでしょうか、なかなか再び会うことはできませんでした。もう殆ど諦めていた頃、オトベ浜に向う途中の浜で、あの素晴らしい雄姿に巡り会うことができました。みごとに尾の白い成鳥が3羽、低空でからみあっていたのでした。思わずこちらの心も踊り出してしまいました。聞くところによると、漁師の人達には、毎度お馴染みの鳥のようです。

オジロワシの特徴は、その名のごとく短くて少しきび形をした白い尾です。オジロワシによく似ているオオワシの尾は、同じくきび形をした白い尾でも、オジロワシの尾よりもかなり長目で、はっきりしたくさび形です。また、オオワシは額や肩の部分の羽も白いので、容易に区別が出来ます。若鳥の場合は、嘴、翼や尾の形で見分けます。オジロワシの若鳥の嘴は小さくて黒っぽく、オオワシの若鳥の嘴は大きくて黄色です。食いしん坊の私は、オオワシの嘴を見ると、なぜかカシューナッツを連想してしまい、思わず「おいしそう」とつぶやいてしまうのです。

オジロワシは、北海道の北部および東部で少数



繁殖しますが、大部分が冬鳥としてシベリア方面からやってきます。日本野鳥の会十勝支部の情報では、昨年12月11日に豊頃町湧洞で3羽、今年1月23日に成鳥1羽・亞成鳥3羽（村上・若杉・小野）が確認されています。

ここ、厚内では1月18日亞成鳥1羽（佐藤・井口・山田）、2月26日成鳥3羽（山田）、2月27日成鳥2羽（井口）、2月28日成鳥4羽（井口）、3月1日成鳥2羽（井口・佐藤）、3月2日成鳥2羽（井口）が確認されています。

（日本野鳥の会会員・厚内小学校事務官）

## 目 次

厚内でオジロワシ	山田 由紀江	2
十勝川及び下頃辺川流域の野鳥—特に浦幌町内の場合—	徳永 晃	3
浦幌炭礮覚書	円子紳	11

**写真説明：河合牧場** 明治末期に十勝郡生剛村大字下頃辺に置かれた牧場。岐阜農場にゆかりのあった河合長平により開かれ、多数の乗用馬と車挽馬が生産された。（後藤秀彦）